

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870200767
法人名	特定非営利活動法人 皐月
事業所名	グループホーム さつき
所在地	愛媛県今治市泉川町1丁目1-29
自己評価作成日	平成22年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者お一人お一人の意思を尊重し、それが叶えられるように、職員・経営者共に「寄り添うこと」を大切に考えている。理念に掲げている「穏やかな生活」がおくれるよう、利用者ご自身の“家”として、寄り添いながら安心して暮らせるように努めている。  
職員は、利用者の気持を感じ受け止めつつ、「してあげる」ではなく「一緒に、また、困難なことは支え合いながら」と言う姿勢で共に暮らしを支え、炊事、洗濯、掃除や季節ごとの行事を行っている。また、ホーム内ではご利用者が季節の花を水盤に活けられており、各所に植物や生花が飾られている。ロビーや前庭で花や植物を眺められるようになっており、職員、来客者、ご利用者共に癒される空間でお茶を楽しんだり写真を撮ったり、和やかな雰囲気生活されている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●管理者は、職員会・ミーティング以外にも、月2回は、職員と1対1で話し合う機会を作っておられる。排泄の記録の仕方について、より具体的に分かるような表現に替えることについて職員から提案があり、採り入れておられた。  
●おやつには、くず湯・醤油もち・はったい粉等、利用者の年代には、なつかしいようなおやつを楽しめることもある。  
●お風呂は皆、好きなようで、ほとんどの方が毎日入られるようである。入浴中、気持ちがいいと、大きな声で歌を歌う方がおられ、職員も介助しながら一緒に歌っておられる。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. <b>たまに</b> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. <b>ほぼ全ての職員が</b> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. <b>ほぼ全ての家族等が</b> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームさつき

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

青野 勇

評価完了日

平成 22 年 8 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人及び事業所の基本理念として「支えあい・助け合い」を掲げており、利用者に家庭的な雰囲気の中で穏やかな暮らしと自分らしい生活が守れるようホームの理念を作り上げている。地域の高齢者、そのご家族の助けになるようなホーム作りを目指している。直、職員には理念が出来た背景を話し、その目的を共有できる様に取り組んでいる。運営推進会議でも、事業所の理念について話している。	
			(外部評価) 理念を居間の壁に掲示して、職員と利用者、又、事業所と地域の方々が「支えあい・助け合って笑顔のたえない」事業所作りを目指しておられ、職員は、利用者と一緒に声に出して理念を読んだり、日々のケアの中で理念に立ち戻り、実践できるよう取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日々、ご一緒（職員と利用者）に散歩する時などに交わす、地域の人達との会話や挨拶の中でも着実に地域に溶け込んでいると実感を持っている。また、ホーム主催の餅つき大会や花見会等でも、広報にチラシを挟んだり直接ご近所にお声掛けするなど、積極的に地域の人達にも参加を呼びかけ交流を深めている。	
			(外部評価) 散歩や買い物等、職員と利用者は日頃から地域の中に出かけて行き、挨拶や言葉を交わすことに努めておられ、最近では、地域の方のほうから先に声を掛けてくださることも多くなってきたようである。地域のボランティアの方が来られて、沖縄民謡・歌謡ショー等を披露してくださった際には、利用者も一緒に歌を歌ったりして楽しい時間を過ごされた。事業所の餅つき大会の際には37人くらいの方に参加をいただいた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 広報（自治会）配り等を行い、地域の人達と話す機会を多く持ち、私たちの専門性を活かした分野で相談を受ける等しながら、お役立てるよう心がけ活動している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議の機会を捉え、自己評価・外部評価の結果や改善計画、入居者の状況、さつきの理念や日常の健康管理、防火安全対策等について議題に取り上げ、その都度ご意見をくみ上げながらサービスの向上に繋げている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は、民生委員・自治会長・市介護課職員・家族等のメンバーで2ヶ月に1回、事業所内で行われている。事業所からは、行事等の活動を報告されたり、利用者の日々の様子等を伝えて、意見や感想をつかっている。災害時の取り組みを話し合った中では、消防署の方から「臨機応変な対応が大事なので、画一的な訓練にならないよう」との助言があり、避難訓練の際には、想定する場所や時間を変えて行うことを予定されていた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の担当課には、我々はNPO法人の精神で事業を進めており、お役に立てることがあれば、積極的に社会貢献活動をして行きたい、と言った考えを伝えている。 また、前回の外部評価後の9月30日には「認知症家族を支える会」を開催（総参加者13名）し、認知症について理解を深めた上で、各参加者から発表や相談を受けた。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>「認知症家族を支える会」では、認知症介護についての相談や「家族が介護する際、職場での理解を得るためにどうすればいいか」等の質問も出され、話し合われた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員会や勉強会、また、説明会など機会あるごとに身体拘束に関する問題について話し合い、その意識を高めている。なお、その人らしさを奪う行為は、ホームの理念に反する事としてして厳しく捉え、職員採用時はもとより、折に触れ指導している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>玄関に鍵はかけておらず、開閉時にはチャイムが鳴るようになっている。視力が弱い方は、ベッドから離れようとする「ワンワン」と音が出て、職員が気付くようになっていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新規採用時には、虐待の具体的内容を挙げ、ホームの基本的姿勢（虐待は許さない）を明確にしている。また、虐待が見過ごされることがないように注意を払いながら問題意識の徹底を図っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 常々権利擁護について取り上げ、話し合いの機会を持っている。また、管理者はそうした研修に積極的に参加している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時は段階を踏みながら、ホームの現状等の説明を行い、重要事項等の説明を丁寧に行っている。また、何度かホームに来ていただいたり、お宅訪問する等して話し合う機会を設け、利用者やご家族が質問や疑問に感じる点は遠慮なく言っていただく様、常に申し上げており、十分に納得が得られるように図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者やご家族が意見や苦情等を職員等に訴えやすいよう、不都合や不便はないか、こちらから積極的に問い掛けるようにしている。また、第三者の立場で相談できる人を立て、言いにくい事があれば相談出来る様にもしている。 (外部評価) ご家族には、個別にお手紙で利用者ご本人の体調や事業所での様子を知らせておられる。家族会は、年2回行っておられ、うち1回は、お花見に出かけて親睦を深められるよう取り組まれている。職員は、ご家族の来訪時には「何か心配なことはないですか」と声をかけ聞き取るようにされている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議や勉強会には必ず、管理者兼代表者が出ており、その際に積極的な意見交換を行っている。また、常日頃から職員が意見を出しやすい職場環境作りを心がけており、更に、運営者の方から聴くようにもしている。	
			(外部評価) 管理者は、職員会・ミーティング以外にも、月2回は、職員と1対1で話し合う機会を作っておられる。排泄の記録の仕方について、より具体的に分かるような表現に替えることについて職員から提案があり、採り入れておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業所では、早出や食事係のアルバイトを置くなど、ゆとりのある介護を目指した事業運営をしている。また、休日希望制も取り入れながら、働く職場環境の充実に力を入れている。更に、職員に事業経営をオープンにし、広い視野で事業を取らえられるように図っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員自らが自己評価(一部分)を行う中で、職業意識を高め、さらに広い視野で介護を捉える事が出来るよう取り組んでいる。また、全職員が外部研修を受けられる機会を設け、その外部研修内容を職員会等で発表することで、未受講者への浸透を図っている。なお、要望があれば資格取得に関する経済的な支援もしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業グループとの連携が取れるようにネットワークを構築している。また、今後も引き続きグループホーム連絡協議会の交流会や研修には前向きに取り組んでいきたいと考えている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはご本人と何度も会い、これまでの暮らしについて時間をかけて話をうかがい、聴きだせるように努めている。また、体験入所を積極的に勧めており、その体験を通し本人の希望、要望や不安を傾聴しながら向き合っている。入所時には、管理者が毎日様子を伺い、安心した暮らしが出来る様に支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から入居されるまで、どの様な点に困っておられ、どういった点を求めておられるか、十分に伺う様にしている。ご家族からの不安や相談には誠意を持って応えてゆく事が事業所の運営方針である。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時、事情を伺う中で、必要に応じて連携施設や他の事業所、施設等の支援制度（介護保険）について説明し、助言している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) リハビリ体操や唄、レクリエーションを毎日職員と一緒にしており、そうした共同生活の中で支えあう関係を築くことが出来ていると思う。また、家事なども一緒に助け合っている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様に、電話やお便り等で利用者ご本人の日頃の様子が常に届くよう、情報を入れている。何時でも話し合いが持て、共に協力しながらご本人を支えていける関係を大切にしている。また、家族会、誕生会やお花見会、餅つき等の季節の行事にはご家族に参加を積極的に呼びかけ、皆で楽しめる機会を設けている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容院や喫茶店、福祉施設などを利用しており、花や趣味の展示会等に行っている。また、電話をする、手紙を出すなどして関係が途切れないよう心がけている。 (外部評価) 職員が利用者の行きつけの洋服店にお連れしたり、ご家族や友達と電話でおしゃべりを楽しまれる方もある。利用者から「お墓参り」や「家に帰ってみたい」等の希望があった時には、ご家族に伝えて、ご家族が連れて行ってくださるようである。	利用者の友人や知人からお手紙や年賀状等が来ると、これまではご本人がお返事を書いておられたようであるが、お返事することが難しくなってきたような方もあるようだ。職員のサポートでやり取りを続けることができるよう支援に工夫はできないだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションやおやつ、ティータイム、散歩や外出等、利用者同士の交流時間は多い。そうした中で、職員は互いの関係に配慮して座席も決めている。相互関係を大切にすることで支えあえる関係が築かれている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 一度ホームに入居された方とのご縁を大切に、退居後も機会を捉え、その後の様子をご家族に伺うなど、相談にのらせて頂いている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時はもとより、日頃よりご本人やご家族に生活面での希望を傾聴している。また、これまでのライフスタイルを受け止め、出来るだけご本人に合った環境作りに努め、その人らしい生活が図れるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は「利用者の目線に合わせてじっくりと話を聞く」ように心がけておられる。利用者の様子から、職員は「夕方になると人恋しくなるのではないか」と感じることもあるようで、居室でゆっくりとお話を聞くようにされている。	職員の利用者へのかかわり方や言葉かけ等を工夫され、利用者個々の思いや意向を探り、情報を蓄積して、ご本人主体の介護計画につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にアセスメントを行う事やこれまで暮らしていた地域の人にも生活歴等を聴き、情報把握に努めている。そうした事を参考にし、利用者が安心して暮らせる生活環境作りに役立てている。また、入居後も面会時等で聴けた情報も活かせる様に記録に残しながら活かしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りや日々の記録から、利用者の心身状態が把握できるようチェック機能を構築している。職員会や勉強会等でもその人に合った過ごし方が出来る様に話し合っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 担当者を班別に決め、経過記録をつけながらモニタリングを行っている。本人やご家族からは、面会に来られた折、また電話等にてご意見や希望を聴きながら、介護計画見直し時には職員会や勉強会で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 日報や個人記録の中に記入された利用者個々の「言葉や態度」等の記述から「ご本人の気持ち」の把握に努め、ご家族の意見を大切にしながら担当職員で話し合い、介護計画を作成されている。計画は、毎月モニタリングを行い、6ヶ月に1回見直すようになっている。状態の変化が見られた時は、随時見直しをするようにしている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録の中で、ケアの有り方をわかりやすくまとめ記載し、日々のケアに活かされているか確認(チェック)している。また、日報、夜勤報の申し送りのを徹底しており、職員が情報を共有出来る様にしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 馴染みの理美容院の送迎や医療機関への受診援助、友人や親戚宅等への訪問援助や、希望により自宅への一時帰宅の支援など、出来る事は柔軟に支援している。また、外部ボランティアの活動を受け入れる等もしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 消防署の普通救命救急講習(蘇生法、AED講習)を受けている。ボランティアによる演目披露や地域で開催する文化祭や展示会には良く出かけている。また、グリーンピア等の施設を利用し、自然との触れ合いを大切にしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族には、入居時に医療を受ける際の希望を聴き、要望に沿って対応している。また、身体状態の異変や異常には早期発見、受診を心がけている。また、症状によって医療機関を家族と相談しながら選んでいる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者・ご家族の希望するかかりつけ医で受診できるように支援されている、定期的な受診はご家族が付き添っておられ、ご家族の都合が悪いような時には職員が同行されている。緊急時は、ご家族と相談して救急対応の出来る病院で診てもらっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日常生活において利用者の細かな異常や異変に気付く、報告すると言った体制を構築している。受診については、毎日の様子を観察している責任者が、かかりつけ医やご家族と相談しながら判断している。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入退院時には、基本的に管理者自らが責任を持って病院関係者及びご家族等との連絡を密に取り合い、情報交換や相談に努めている。また、関係医療機関の関係者とも日頃から連絡を取り合っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>重度化や終末期の問題は、以前から常々家族会等でも話し合う機会を持っており、入院時や体調急変時には個別にご家族と意見交換、相談をさせていただいている。連携医療機関やかかりつけ医との問題も事前に話しており、事業所としては、出来る事や出来ない事を明確にしながら取り組む姿勢を示している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>「看取り指針の理念」に「適切な看取り介護を行い、事業所において看取り支援を最大限継続することが基本」と示し、希望があれば最期まで事業所で看るが、その際は「夜間はご家族の協力をいただきたい」と考えておられる。ご家族には、運営推進会議や家族会時に説明をされている。食事や水分が摂れなくなった時には、担当医師も交えてご家族と話し合うようになっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署に依頼し、これまでに何度か、事故・急変時の対応等の訓練を受けている。また、本年5月にも普通救命救急講習(蘇生法、AED講習)を2名受講しており、その研修内容は職員会でも発表している。なお、事業所にはマニュアルを整備している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の避難訓練は全職員が参加するかたちで、年に2回程度行っている。運営推進会議でもテーマに取り上げ話し合っている。災害時の連絡先や自治校区の自主防災組織図をホーム内に示し取り組んでいる。 (外部評価) 年2回、避難訓練を行っておられ、初期消火訓練・消火器の使い方・通報訓練・避難訓練を行っておられる。6月の訓練は、夜間を想定して行われ、職員1人で全利用者を誘導するのに10分を要したという課題点が残り、管理者は、屋外避難用のスロープの幅を広げて、車椅子での移動をしやすくしたり、運営推進会議等で、近隣の方々の応援協力をさらにお願いされた。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の気分を壊さない声かけやコミュニケーションのとり方は、職員会や勉強会でも、常に心がけるよう話し合っている。採用時はもとより、プライバシーや個人情報を守る事の重要性やそうした職業意識を高める取り組みを行っている。 (外部評価) 管理者は、新人研修や職員会時に、個人情報についての守秘義務について話されている。職員は、トイレや浴室、居室等、プライベートな場所に入る時は、ノックして声を掛けてから入るよう気を付けておられる。調査訪問時の昼食後の服薬時、職員は利用者の耳元でお薬の内容を伝えて支援されている様子がうかがえた。夜間使用するポータブルトイレは、昼間は収納されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食べ物や飲み物には出来るだけ選択の幅を持たせ、ご本人の希望に沿うようにしている。また、レクリエーションや作業は強制せず、無理の無い範囲で能力に合わせたものを選んでもらっている。また、普段の関わりの中で、本人がどのような希望や要望を持っているのか、聞いたり感じたりしながら介護に携わっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先しないよう常に話し合っている。「自分らしい生活」はホームの理念であり、その人らしい生き方、その人に合ったペースでの暮らしの支援に重点を置くよう、運営者、管理者、職員は心がけている。また、日中、職員の数を増やし、ゆっくりと一人ひとりに向き合う時間を大切に、利用者の暮らしの希望に添える努力をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容院利用の際、希望者によっては、かかりつけの店に予約を入れ、送迎支援をしている。また、職員が利用者の容姿に関心を持ち、その人らしさを大切にしながら暮らせる支援を心がけている。外出時に着替えの服をご本人に選んでもらったり、利用者専用の化粧箱を用意し外出やイベントの時に使用して頂いている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 主な調理に関しては外注しているが、利用者さんの中には積極的に台所の手伝いやお皿拭きなどの後片付けを手伝われる方もおられる。また、日常的にとはいかないものの、一緒におやつを作ったり、食材の下ごしらえを手伝ってもらえる機会を設けている。 (外部評価) 事業所では利用者が安全に食事できるように、個々の状態に合わせて、きざみ・とろみ・ほぐし等、調理をされている。又、視力の弱い利用者には、食品がはっきり見える色彩等にも配慮しておられる。調査訪問時、職員は、食事介助をしながら、利用者と同じテーブルを囲み穏やかな表情で食事をされていた。おやつには、くず湯・醤油もち・はったい粉等、利用者の年代には、なつかしいようなおやつを楽しまれることもある。	現在、事業者の食事は、事業所でご飯を炊いて、その他は外注している。利用者やご家族の希望で外食をしてお好きなものを食べるような機会もあるが、日々の中でも利用者が好みのものを食べるような機会を増やしていかれてはどうだろうか。又、食事作り一連を通じて利用者の役割や出番を作っていかれてほしい。ご家族や運営推進会議等でも、事業者の食事支援についてご意見を聞いてみてはどうだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量や水分量については、毎食チェックして記録に残し、必要量が取れているか一人ひとり気をつけている。また、嚥下困難な方や偏食の利用者には、形態や調理方法を工夫している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行い、夜間には定期的に義歯のポリドント消毒をしている。また、口臭の気になる方に関してはモンダミン等を使用している口腔ケアを行っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表に毎日個人の排泄状態を記載しており、職員全員が把握できるようになっている。この表を元に申し送りを行い、毎日排泄トラブルのない支援を心がけている。日中はこまめにトイレ誘導を行い、入居者の状態に合わせた支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表で把握し、一人ひとりに声かけしてトイレで排泄できるよう支援されている。夜間は、居室内にポータブルトイレを置く方もあり、できるだけトイレで排泄できるように支援されている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 便秘気味の利用者には、その人の好みや体質等を考えながら豆乳や牛乳等を飲んで頂き、出来るだけ自然排便に向けた支援をしている。また、個人にあった漢方薬（緩下剤）があればその薬を継続するようにしている。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 男女の入浴時間をずらしたり、希望を聴いたりして、なるべくご本人の希望時に入浴が出来る様に配慮している。また、身体状態を考慮しながら、特殊浴槽を使う支援をしている。</p> <p>(外部評価) 月・水曜日は、入浴はお休みになっているが、他の日は利用者の好きな時間に入ることが出来るように支援されている。お風呂は皆、好きなようで、ほとんどの方が毎日入られるようである。入浴中、気持ちがいいと、大きな声で歌を歌う方がおられ、職員も介助しながら一緒に歌っておられる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日中、倦怠表情の著しい方には居室で横臥して頂くなど、適時休める無理の無い生活を送れるように支援している。安眠の妨げになる事を出来るだけ排除したり、就寝前にはゆったりと過ごしてもらい、刺激の少ない飲み物を準備して、安眠につなげている。また、睡眠状態をチェックし日中の過ごし方なども考えた支援をしている。</p>	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬に関する事は、日々の申し送り項目の中に入れ、服薬の変更やあり方等について確認している。また、服薬管理の徹底や利用者の症状、変化に早期に気付く為の取り組みを行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションや創作活動、パズルや計算問題等、その方の得手不得手に合わせて声かけし、支援している。また、写真を飾る、メダカを飼う、生け花、庭で草木を愛でる等、個人々の関心事や趣味の中で楽しめる支援を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お天気の良い日には毎日散歩に出ている。また、いつも行けるといわけではないが、ご本人の希望等もお聴きし、買い物、ドライブ、季節の花見、文化祭、展示会や喫茶店等に出かける等の外出支援をしている。ご家族等にお声をかけ、買い物や喫茶店等に一緒に出かけることもしている。	
			(外部評価) 散歩コースは、天候や利用者の希望で替えて、15~25分程度散歩できるように支援されている。調査訪問時、職員と手をつないだり、車椅子で事業所の周辺を散歩されている様子がうかがえた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人が希望される場合は、ご家族と相談し、自由に使えるお金をホームでお預かりして外出時等に遣って頂いており、その人の能力にあった金銭管理を行い支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) レクリエーション等でも、暑中見舞いや年賀状等を出す支援を行っている。また、時には家族に、ホームから電話をかけ、とりつぐなどの支援もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間から、庭への出入りが自由に出来、玄関からは植物を鑑賞しながら寛げる場所をつくる等、四季の花を楽しめる環境を大切にしている。玄関やロビーには、活けた花や観葉植物を飾っており、心地よい生活環境には特に力を注いでいる。また、音などの刺激を防止するなど必要に応じて適時、工夫を凝らしながら支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関や居間から見える庭や廊下の壁、食卓の上等にも観葉植物や草花を置いて、緑や花を多く配しておられる。玄関上がったところのスペースのテーブルには、利用者が生けたリンドウと小菊の盛り花が置かれていた。食後は、椅子を丸く並べて数名の方が、ビーチボールを使って楽しくレクリエーションをされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ロビーに移り、花を愛でたりテレビを見て一人でゆっくりと寛いだり、居間では皆と楽しくおしゃべりする等、思い思いにロビーと居間とで空間を使い分け、過ごせるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居当時から、馴染みの物や道具を持ってきてくださる様、ご家族にもお願いしており、筆筒や鏡台、使い慣れた折りたたみベッド等を持ってこられている利用者もおられる。また、ご家族やご自分の写真を飾ったりして、居心地の良い居室作りを常に考えながら工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベッドから手の届くところにお茶を置いておられたり、ご主人の写真やご主人との思い出の写真、仏壇や利用者の趣味で集めたお人形・以前から使っていたたんすを持ち込んでおられる方もあった。職員が贈ったお誕生カードも大切に飾っておられた。草花が好きで観葉植物をお部屋に置き、世話をされている方がおり、職員が自宅から摘んできたお花も小瓶に飾っておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>下肢に障害のある方はなるべく洗面所やトイレの近くに座ってもらったり、椅子や小テーブルの置き場所を決める事や通路や公共の場を塞ぐ形で物を置かないよう整理整頓にも気をつけている。また、安全性と自立度を考え、ワイヤレスや滑り止めマットを配置している居室もある。</p>	